平成28年4月26日

西区自治協議会

資料5

西区孤立ゼロ作戦
訪問事業について

西区健康福祉課

問合せ先:地域保健福祉担当　264-7453

内　容

１．西区における高齢者支援の全体像
２．西区孤立ゼロ作戦訪問事業の経年推移
３．H27-28年度孤立ゼロ作戦訪問事業
４．H25年度 一人暮らし高齢者訪問調査結果
５．調査に基づく専門職の話し合いのまとめ
６．H25-26年度縦断調査結果
７．調査結果の地域への報告

西区における高齢者支援の全体像

【西区区ビジョン】 人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち ～ 人と人がつながり支えあうまちづくり

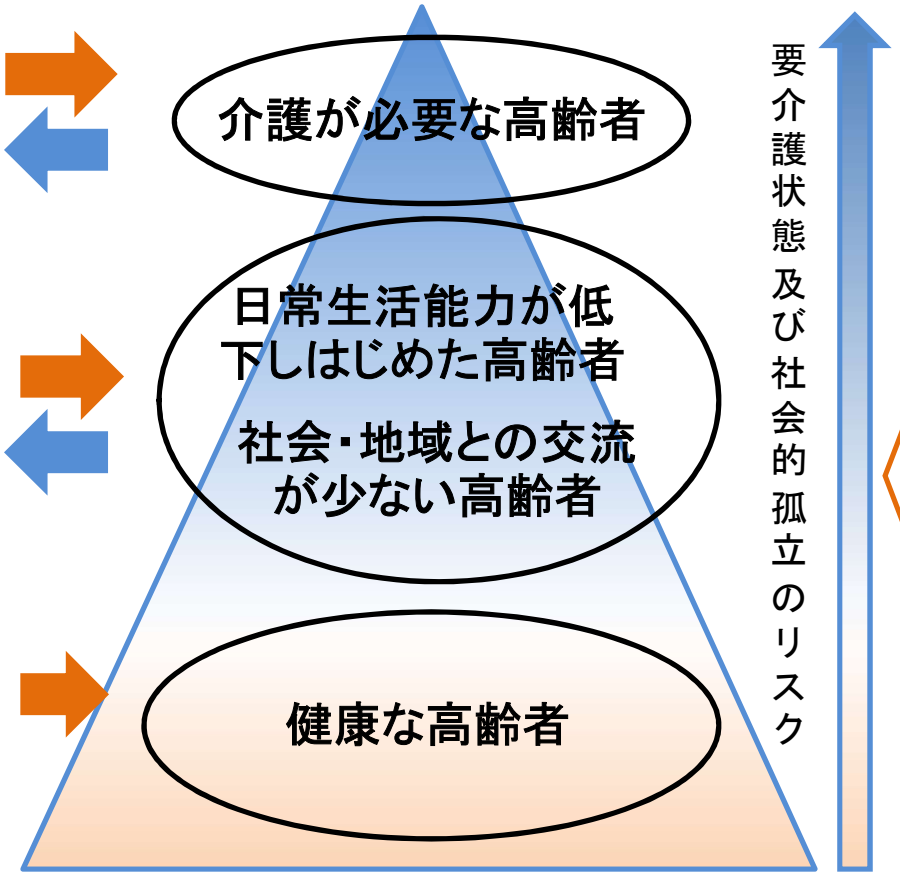
●健やかに、いきいきとした暮らしづくり
・高齢者の健康寿命が延伸できるよう、地域や関係機関と連携した対策の推進

●高齢者をともに支え合い、助け合う仕組みづくり
・地域団体、社会福祉協議会、地域包括支援センターと行政との協働による高齢者を支える活動の取り組み
・高齢者の生きがいづくり、健康づくり、介護予防の推進
・医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築

介護保険サービス
介護保険以外のサービス

介護予防サービス　等
民生委員、地域包括支援センター、地区担当保健師との連携による支援
地域における見守り活動

地域の茶の間、老人クラブなどの地域の自主活動
地区担当保健師による地区活動
区づくり事業（健康づくり事業・介護予防事業等）



西区健康福祉課

●介護保険サービス
●介護保険以外のサービス
●介護予防事業
・幸齢ますます元気塾、脳の健康教室　等
●西区孤立ゼロ作戦訪問事業
●健康づくり事業
・健康教育事業
・健康相談事業
・各種健診事業
●高齢者等安心見守り活動事業
・保健師等による訪問
・自治会単位の地域の見守り体制

西区特色ある区づくり事業

孤立ゼロ作戦訪問事業の経年推移

H25年度

- 保健師等による訪問（一人暮らし高齢者の日常生活の過ごし方に関する調査：75歳以上の独居高齢者237人の調査対象者のうち、分析対象者は195人）
- 地域包括支援センター及び社会福祉協議会、地区担当保健師で一人暮らし高齢者の孤立防止に向けた課題と方策の検討に関するグループインタビュー調査の実施

H26年度

- 保健師等による訪問（平成25年に実施した一人暮らし高齢者調査のモニタリング調査を実施：調査対象者195人のうち、分析対象者は160人）
- 一人暮らし高齢者の孤立防止に向けた課題と方策の検討に関する調査結果について、西区地域包括支援センター会議で報告

H27年度

- 保健師等による訪問（75歳以上の高齢者のみ世帯への訪問調査：H28までの2カ年で実施）
- 地域ケア会議等において、一人暮らし高齢者の調査結果の報告及び孤立防止に向けた課題と方策の検討の実施

H27-28年度孤立ゼロ作戦
訪問事業

【事業の目的】

・孤立しがちな高齢者のみ世帯の健康状態や生活実態等を把握し、必要なサービスにつなげるなどの支援を行う。

・高齢者のみ世帯における社会的孤立の状況を把握し、要因及び背景を明らかにするとともに、地域ごとの高齢者支援体制を検討する材料とする。

H27･28年度孤立ゼロ作戦
訪問事業

- 西区在住の75歳以上高齢者のみ世帯を対象に訪問調査を実施（H27･28の2カ年事業）

（介護保険利用あり、74歳未満の同居家族ありの世帯を除く）

↓

調査対象のうち、約700世帯を優先して訪問

- 調査内容：高齢者の日常生活能力、外出状況、地域との交流状況、主観的健康感、生活満足度、ソーシャルサポート、生活支援ニーズ等

H25年度 一人暮らし高齢者訪問調査結果

【対象】

75歳以上の一人暮らし高齢者のうち、介護保険サービス受給者等を除く237人

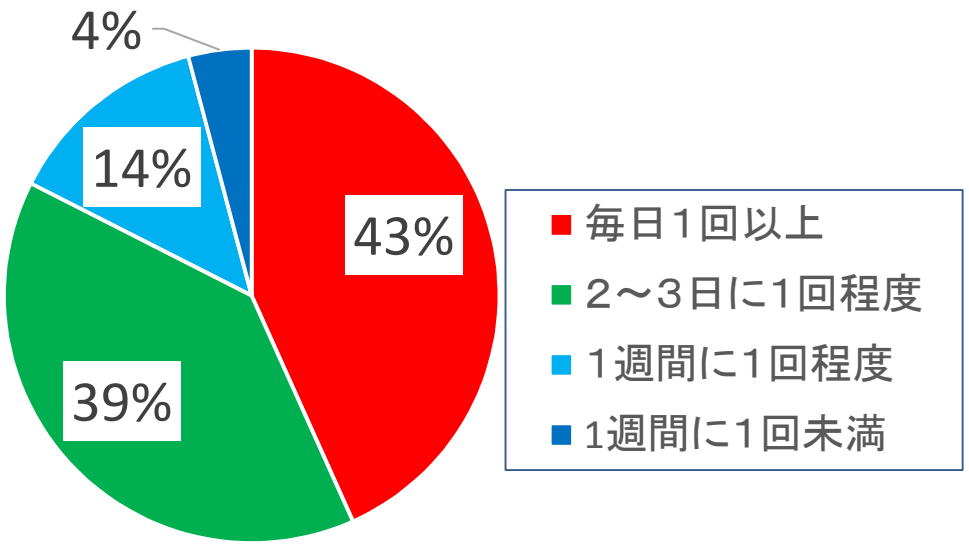
【方法】

保健師・地域包括支援センター職員が、家庭訪問により、生活および孤立状況や支援ニーズ等の聞き取り調査を実施

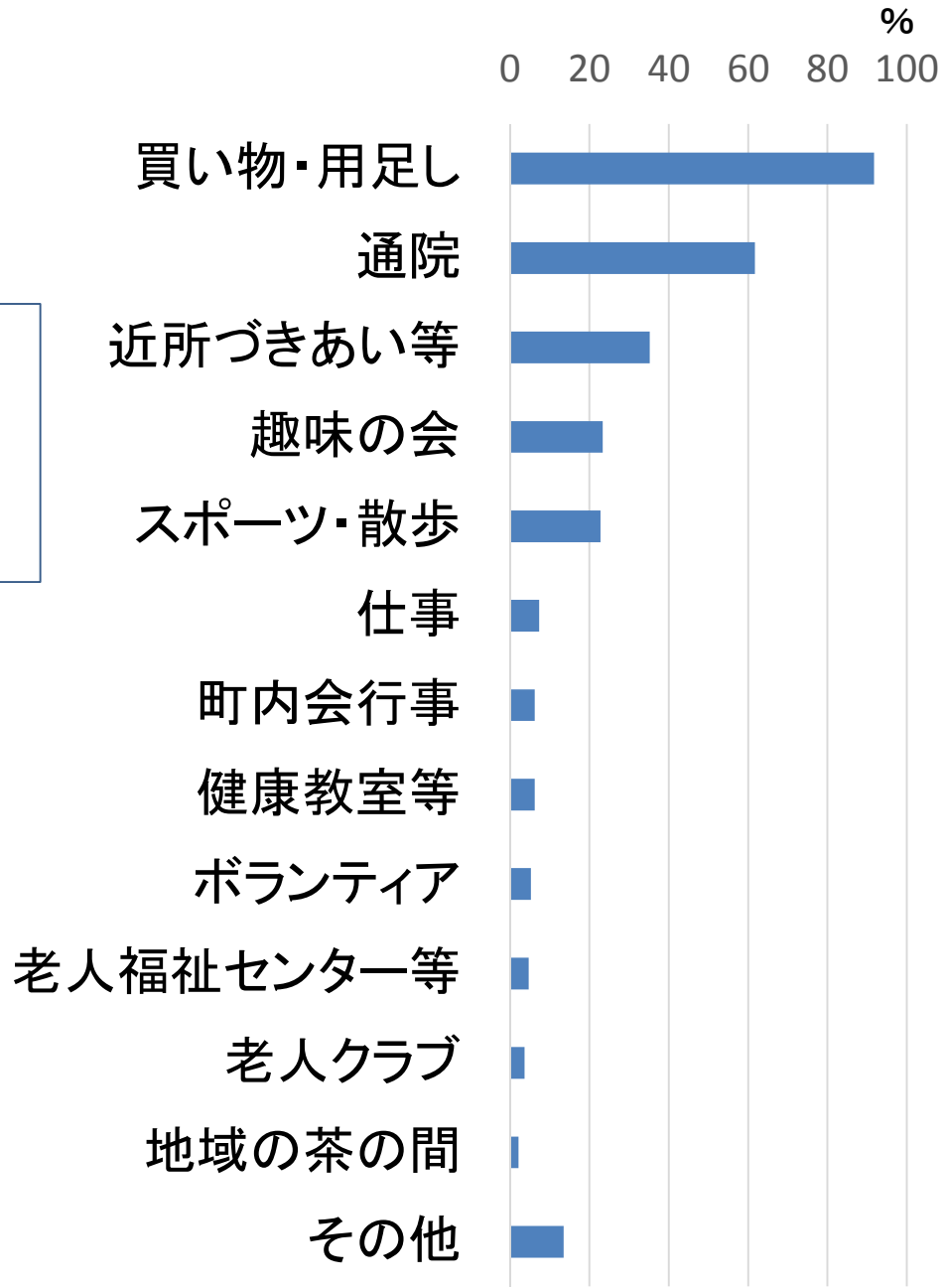
【結果】協力の得られた195人（男性24%、女性76%）を分析対象とした。

『孤立』の定義：
別居の家族等や友人と会ったり、電話で話す頻度が合わせて週1回未満の場合

外出頻度と目的



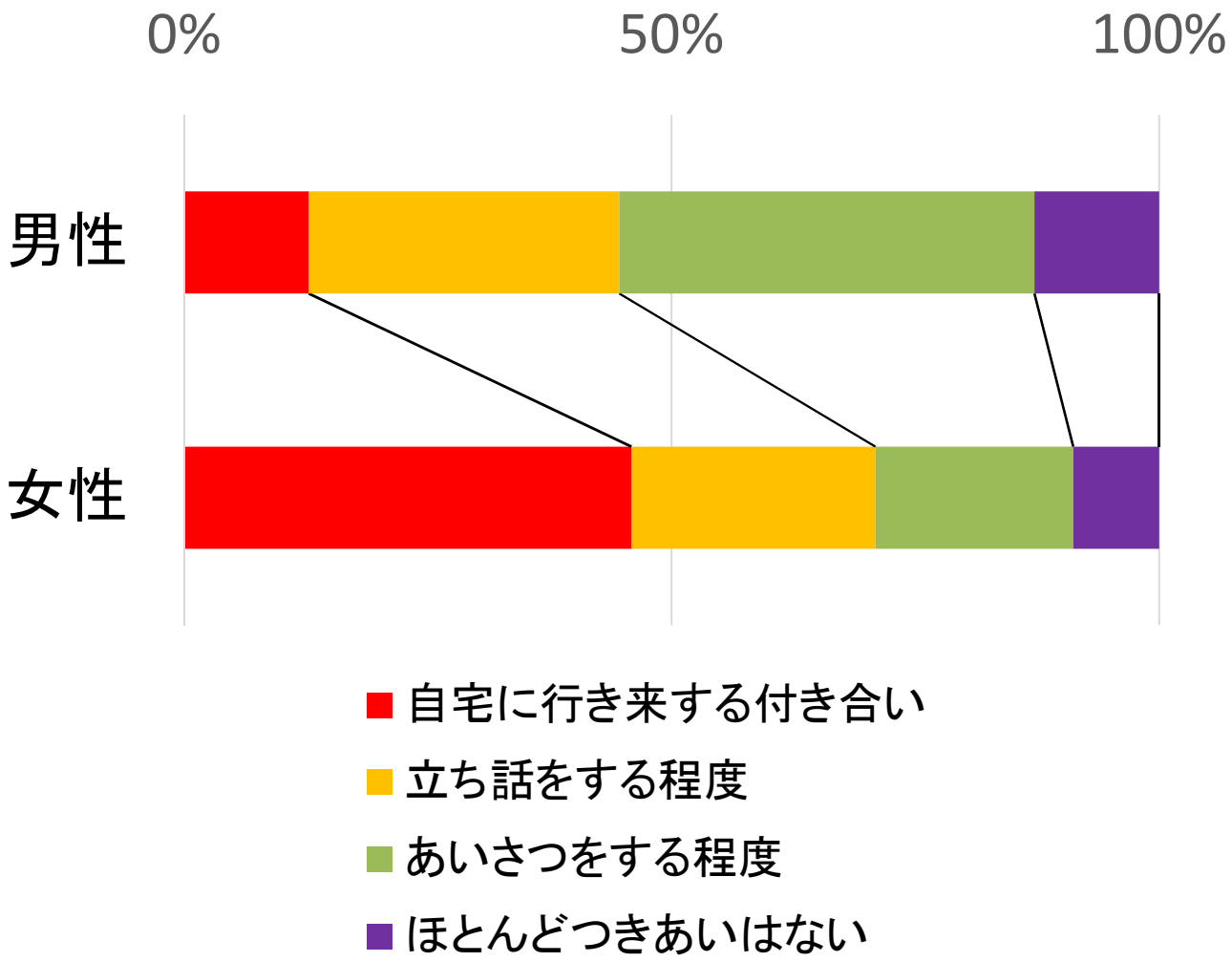
外出頻度



外出の目的（複数回答）

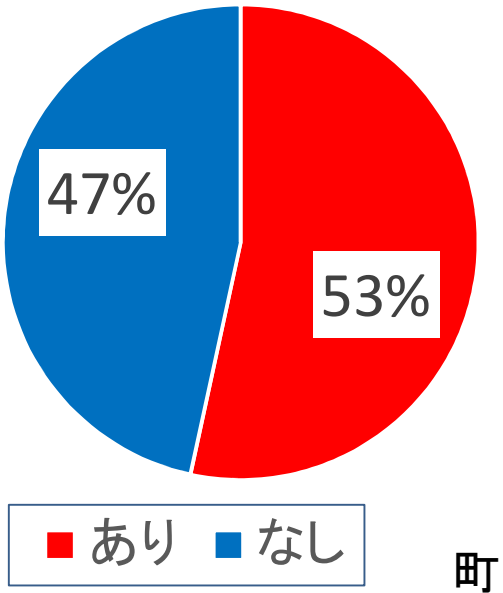
・毎日外出している人は約4割で、孤立の一つの基準ともされる「1週間に1回未満」の者は4%であった。
・主な外出目的は「買い物・用足し」が約9割、「通院」が約6割と、生活を維持するために必要な外出が多くを占めていた。

近所付き合いの程度

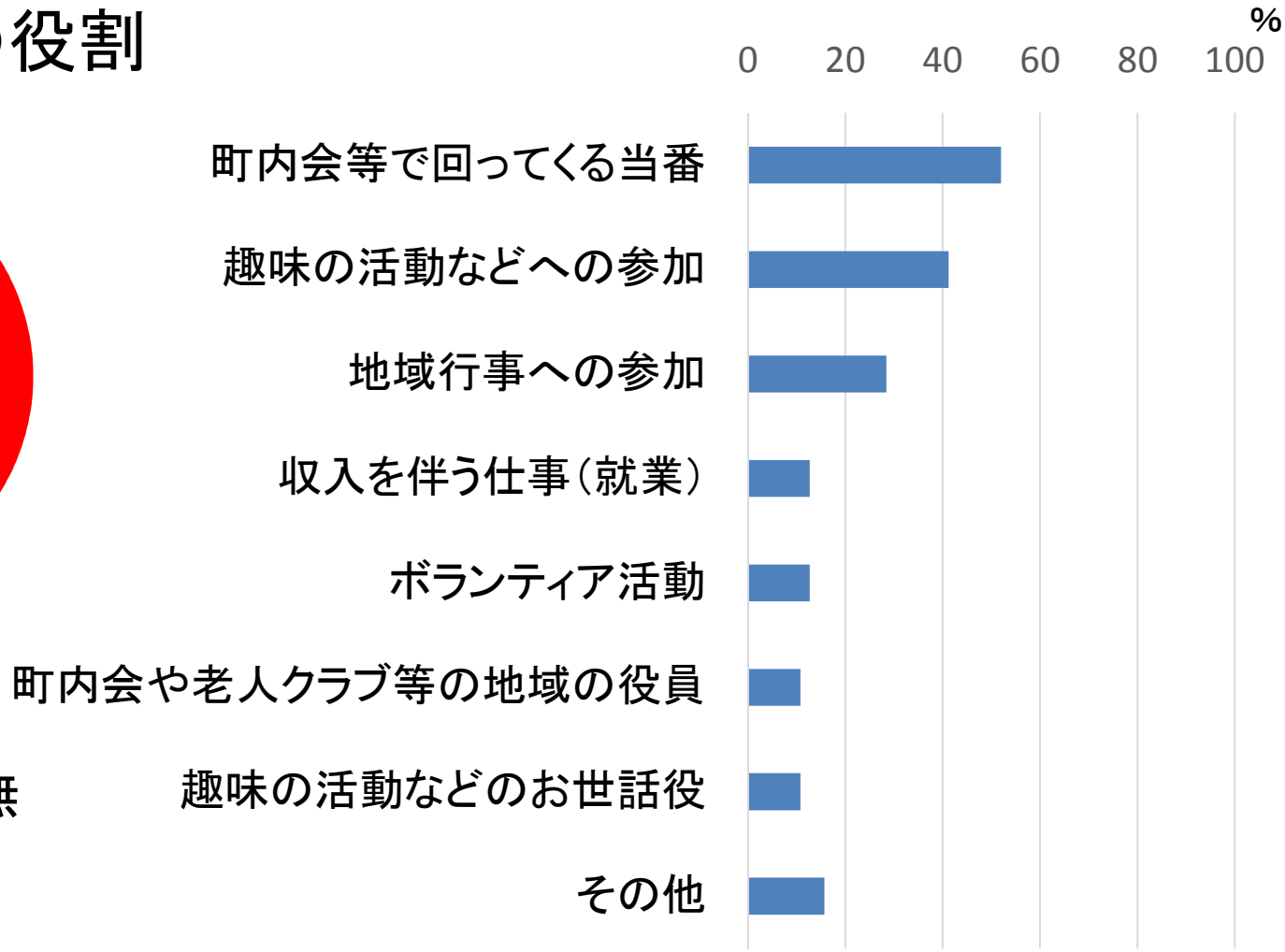


・女性では「自宅に行き来する付き合い」と答えた割合が最も多く、男性は「あいさつする程度」の割合が最も多かった。

地域社会での役割



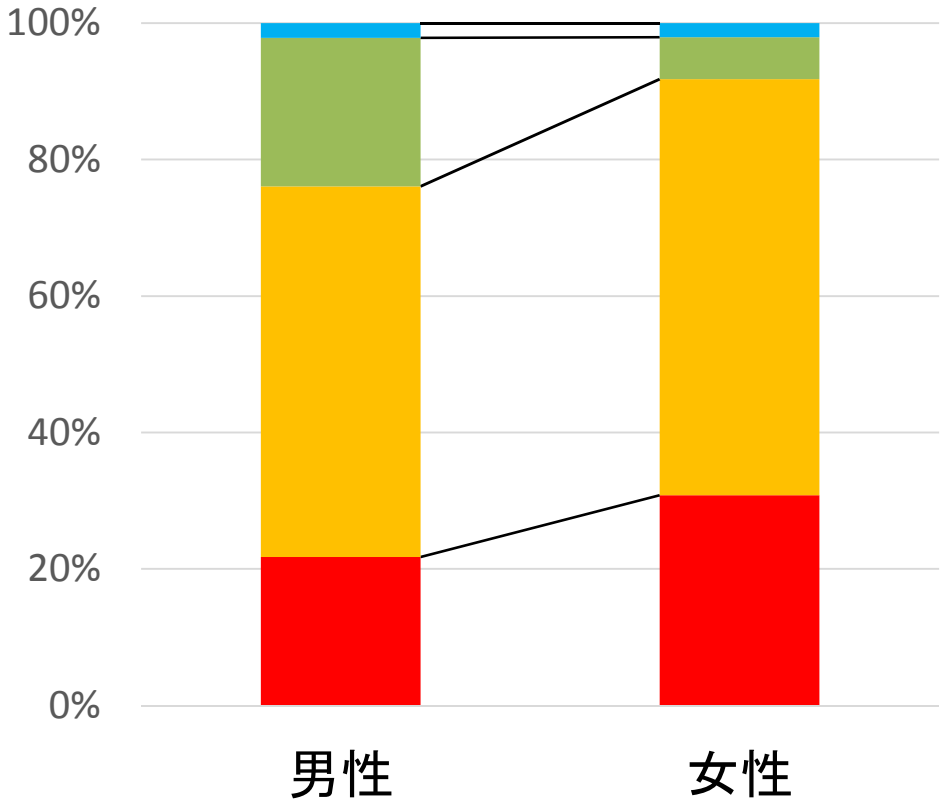
社会的役割の有無



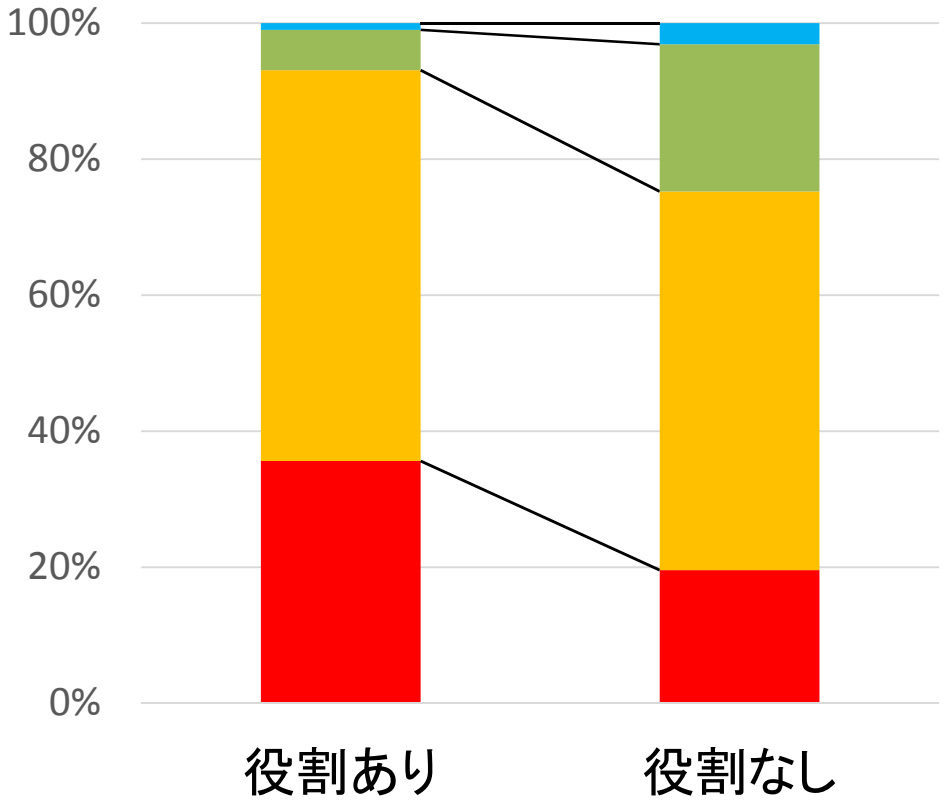
社会的役割の内容（複数回答）

・地域で役割を持っている人は約5割で、「町内会等で回ってくる当番」、「趣味の活動などへの参加」が多かった。

生活満足度（性別）



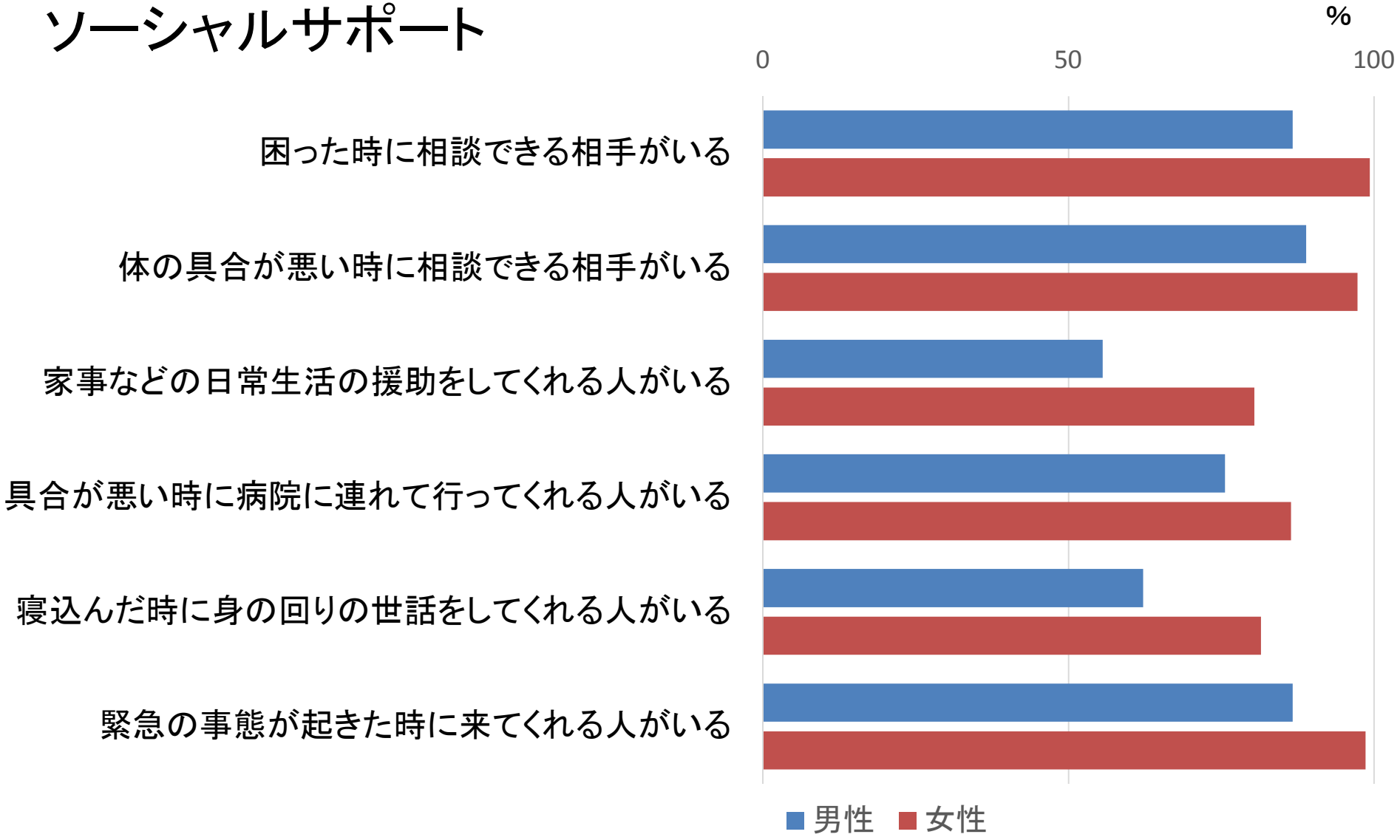
生活満足度（社会的役割の有無）



■大いに満足している　■まあ満足している
■あまり満足していない　■満足していない

・生活満足度は、女性が男性に比べて「満足している」と答えた割合が多かった。
・社会的役割がある人の方が、ない人に比べて、「満足している」と答えた割合が多かった。

ソーシャルサポート



サポートを得られる人が多数を占めるが、男性が女性に比べてサポートを得にくい。

面接による聞き取りから

今、困っていること

掃除・
ゴミ捨て

買い物・
調理

草取り・
庭の手入れ

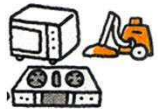
外出時の
送迎

力仕事・
高所の作業
(電球の取替)

雪かき

灯油入れ

その他



- 入浴の介助
- 電化製品等の機械操作
- 入院手続き
- 災害時の支援
- 話し相手
- 町内行事の
  情報不足

将来的にどのような手助けやサービスがあればよいか

自治会による
見守りや声
かけ

元気でいるか
声かけや
話し相手

集会場など
高齢者が
集まれる場

地域の人との
交流・助け合い

日常生活の支援

ずっと自宅で過ごせる制
度やサービス

その他

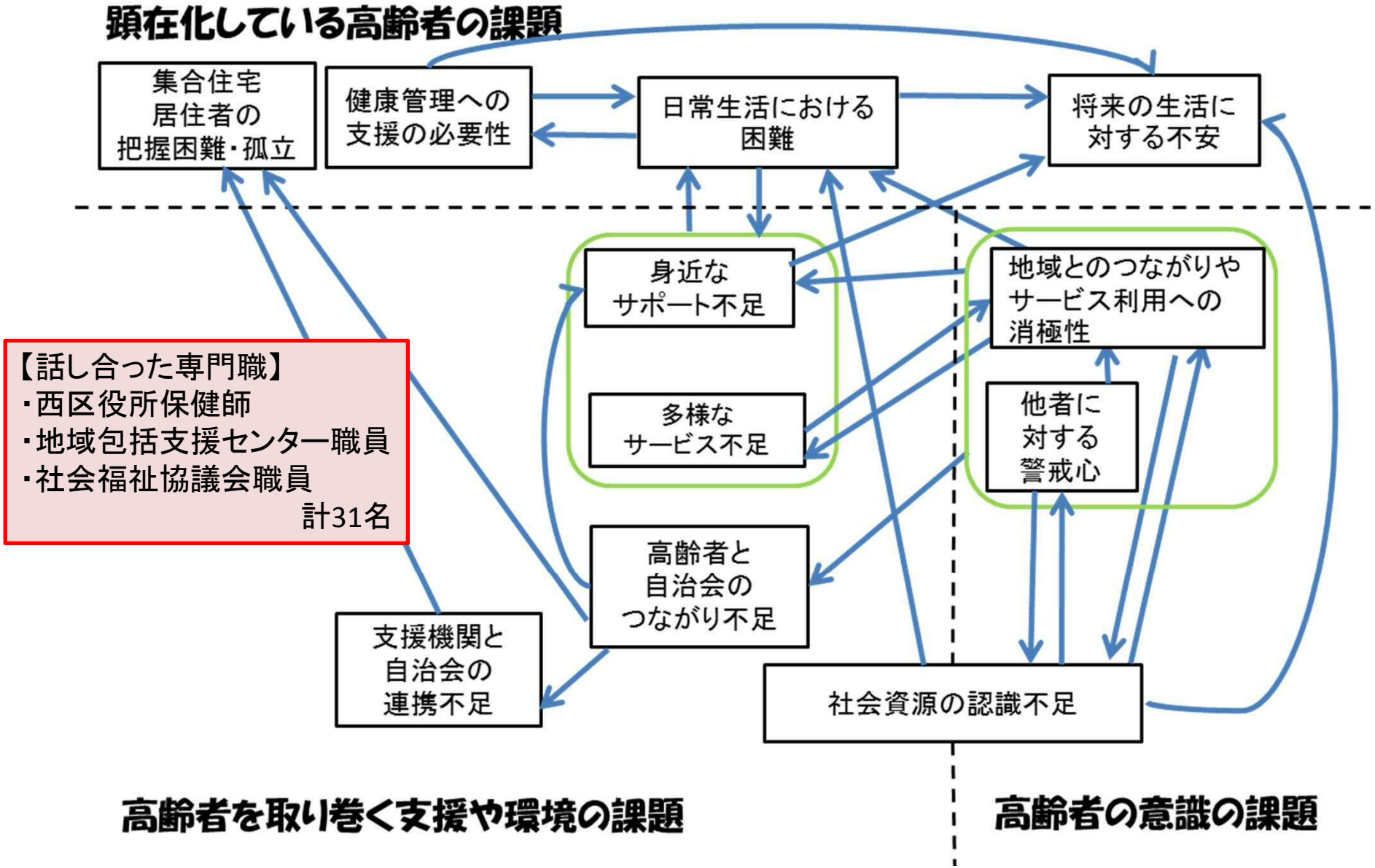
- 介護が必要に
  なった時に
  スムーズに
  利用できる施設
- 受診などの外出支援(利用しやすい公共交通)
- 具合いが悪くなった時の世話や手伝い

H25年度調査のまとめ

- 男性は女性に比べて、近所付き合いが少なく、ソーシャルサポートも得にくい状況であった。
- 社会的役割がある人の方が、生活満足度が高かった。

高齢者が生活の中で何らかの役割をもち、互いに気遣い合う関係性を築くことが重要。

調査結果をもとに検討した
一人暮らし高齢者の孤立防止に向けた課題



一人暮らし高齢者の孤立防止に向けた課題を解決するための必要な支援

1. 見守りの体制づくり
2. 緊急時の対応システムの充実
3. 高齢者が生活しやすい環境づくり
4. 交流の場づくり
5. 男性向けの集いの企画
6. 生活しやすい環境づくり
7. 地域住民の高齢者福祉への知識・関心への働きかけ
8. 住民組織と行政機関との連携・協働
9. 情報共有の工夫

H25-26年度縦断調査

【対象】

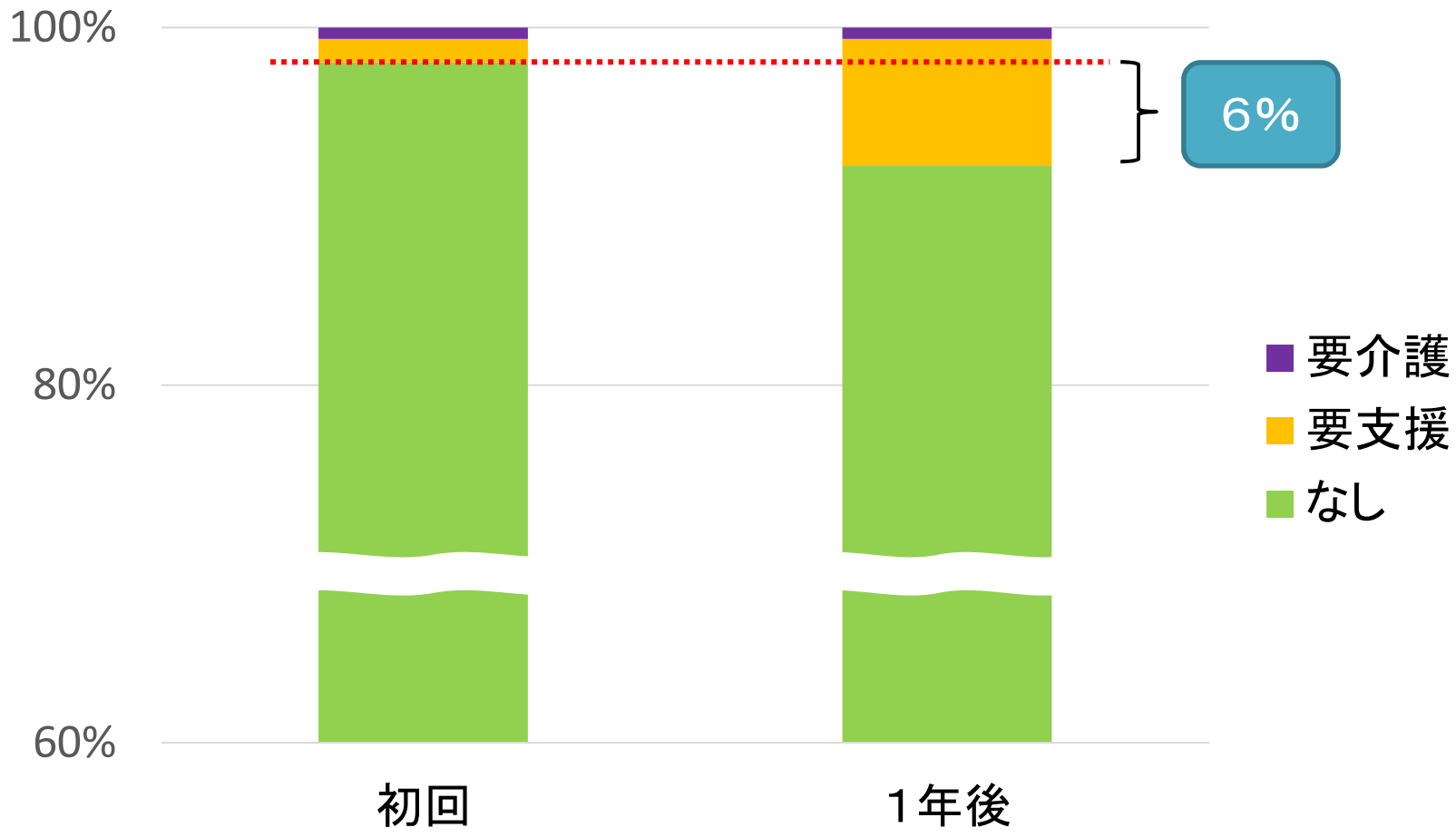
75歳以上の一人暮らし高齢者で介護保険サービス受給者等を除く237人のうち、初回調査(H25)に協力の得られた195名

【方法】

保健師・地域包括支援センター職員が、家庭訪問により、生活および孤立状況や支援ニーズ等の聞き取り調査を実施

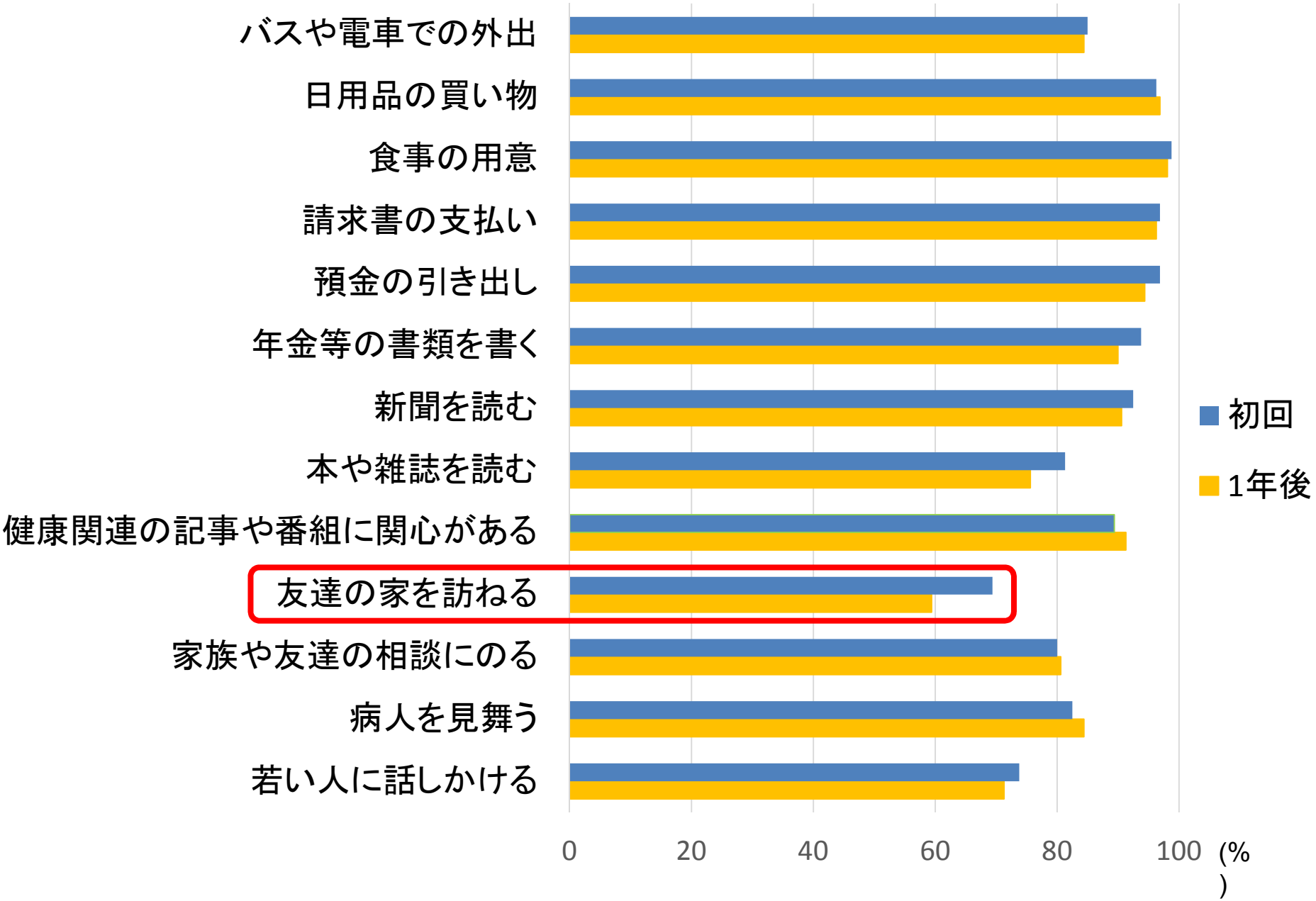
【結果】 縦断調査を実施できた160人（男性21%、女性79%）を分析対象とした。

要介護度の変化



・1年後に「認定なし」の人のうち、6%が「要支援」に変化した。

活動能力の変化

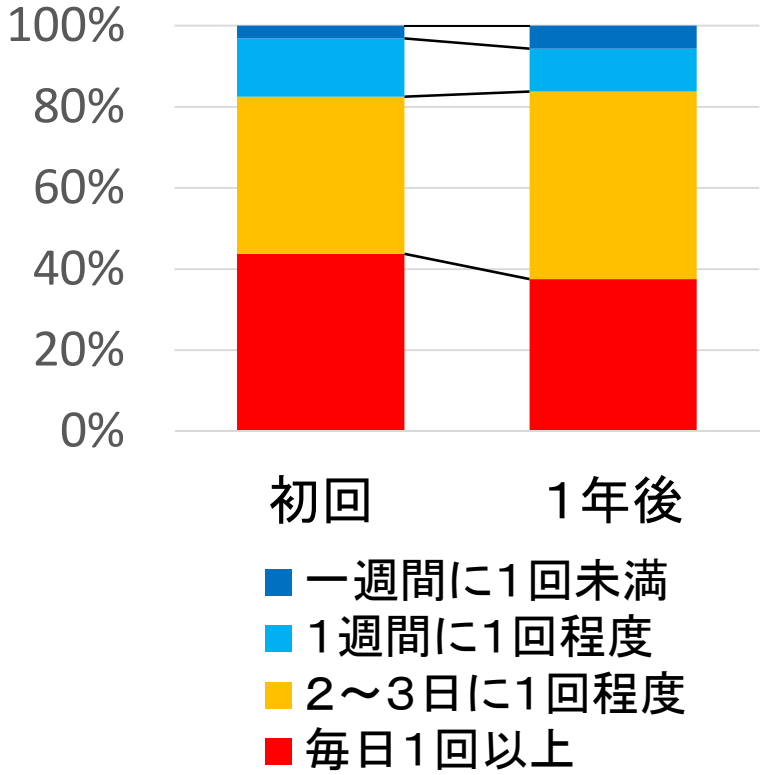

バスや電車での外出
日用品の買い物
食事の用意
請求書の支払い
預金の引き出し
年金等の書類を書く
新聞を読む
本や雑誌を読む
健康関連の記事や番組に関心がある
友達の家を訪ねる
家族や友達の相談にのる
病人を見舞う
若い人に話しかける
0
20
40
60
80
100
(%)
初回
1年後

活動能力の変化

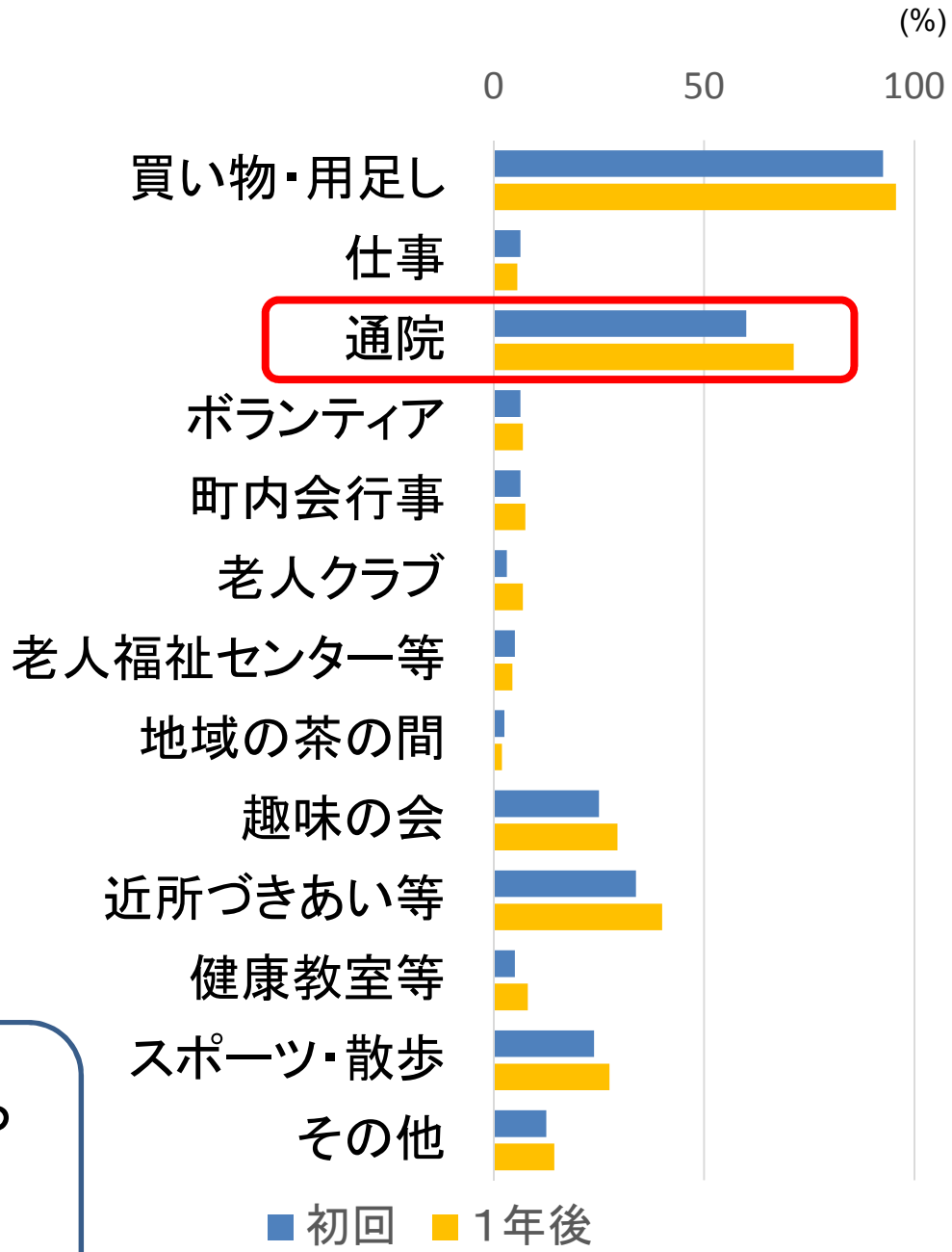
友達の家を訪ねる		1年後	
		できる	できない
初回	できる（111人）	86（78%）	25（22%）
	できない（49人）	9（18%）	40（82%）

・社会的役割である「友達の家を訪ねることができる」で、初回に「できる」と回答した人のうち、約2割が1年後には「できない」と回答した。

外出状況の変化



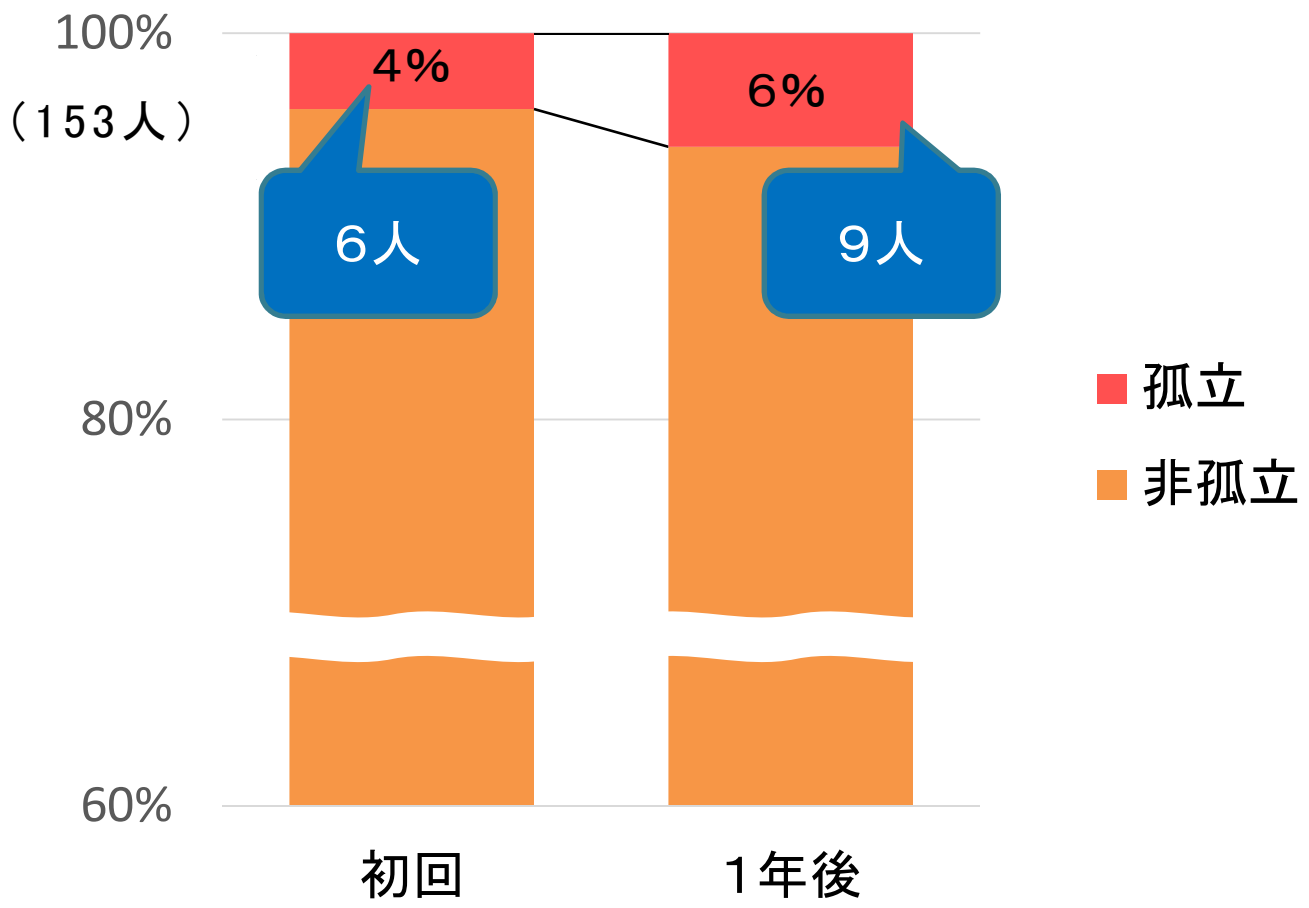
外出頻度の変化



外出目的の変化

・1年後、外出頻度に変化はみられなかったが、目的で「通院」と回答した人が増加した。

孤立該当者数の変化



・「孤立」者は初回6人（4%）、1年後9人（6%）と増加した。

孤立状況の変化

		1年後	
		孤立	非孤立
初回	孤立（6人）	3（50%）	3（50%）
	非孤立（147人）	6（4%）	141（96%）

・初回の「孤立」者のうち、1年後「孤立」が継続している人と「非孤立」に移行した人はそれぞれ半数であった。
・初回の「非孤立」者のうち、1年後に「孤立」に移行した人が4%みられた。

「孤立」→「非孤立」者の変化

・同じアパートの住人と自宅を行き来するなどの交流が増えた。

・別居の家族からの電話の頻度が増加した。

・隣人が買物に連れていってくれるなど交流が増えた。

「孤立」→「孤立」者の特徴

他地域から転居	集合住宅に居住	楽しみ・1日の過ごし方が自己完結型
・夫・子どもを早くに亡くし、仕事の関係で新潟に転居 ・妻の他界をきっかけに息子の住む新潟に転居	・持家の集合住宅に居住 ・借家の集合住宅に居住	・楽しみはTV・新聞 ・一人で出かけることが多い ・買い物以外は、ほぼ在宅

「非孤立」→「孤立」者の変化

本人自身の体調の変化	友人や家族の体調変化	役割等の変化
・手術後、食事量の減少、体力低下を感じ、友人との交流頻度が減った。 ・近所の人や友人には会っていない。	・日頃世話をしてくれていた家族が病気になった。	・週1回訪れていた息子宅を訪ねることがなくなった。 ・老人会の旅行に参加しなかった。 ・町内の班長が終わった。

訪問調査による支援要否の判定

		初回	1年後
支援は不要		132（84%）	133（84%）
支援が必要	保健師訪問	5（3%）	2（1%）
	地域包括支援センター訪問	15（10%）	5（3%）
	サービス導入	2（1%）	10（6%）
	その他	4（2%）	8（5%）

・初回は約8割が「支援は不要」と判断され、「支援が必要」な人については、保健師や地域包括支援センターの訪問、具体的なサービスの利用につながった。

H25-26年度縦断調査のまとめ

- 75歳以上の一人暮らし高齢者は、1年という短い期間でも要介護状態への移行や生活機能の低下がみられた。

- 体調や役割等のわずかな変化が、親族や友人・近所との交流頻度（孤立）に影響する。

高齢者が自分ができる役割をもち、日頃からゆるやかな交流を心がけていくことが、孤立の防止や改善につながる。

調査結果の地域への報告①

- 講演会を活用した報告

開催日	対象地区等	報告内容
H27年 9月19日	西区を中心とする市全域： 一般市民、民生委員、自治協議会関係者、社会福祉協議会、事業者等、100人が参加	【西区まちづくり講演会】 講師の講演に先立ち、 「H25-26年度　孤立ゼロ作戦訪問調査のまとめ」について、報告。

【参加者の主な感想】
「高齢者だけでなく、全 世代でまちづくりに取り組む必要があるという話に納得した」
「地域で具体的にどう動けばよいか、わか らない」
「自治会も手一杯 で、住民だけで対応するのは困難」

調査結果の地域への報告②

- 区役所・地域包括支援センターによる各種会議等

開催日	会議等の名称（対象地区）	参加者	参加者数
10月6日	西区地域包括支援センター・健康福祉課連絡会議（西区全域）	自治協議会、コミ協、民生委員、老人クラブ、社会福祉法人、シルバー人材センター、社会福祉協議会、地域包括支援センターなど	37人
10月19日	黒埼地区民生委員児童委員協議会（黒埼地区）		45人
11月17日・3月　2日	西区ささえあいのしくみづくり会議準備会（協議体）（第1層・第2層）		17人・39人
12月21日	地域包括支援センター赤塚圏域地域ケア会議（西地区）		47人

【主な意見】
・民生委員が、見守り訪問活動の際に社会的孤立のリスク要因を意識するきっかけになった。
・隣近所などのお茶飲みや寄合い、声掛け、おせっかいなどが必要。
・自治会の中でのしくみづくり、地域の役割分担があるといい。

調査結果の地域への報告③

・地区担当保健師による各種会議等を活用した自治会役員、民生委員等への調査結果の報告と意見交換

開催日	会議等の名称	参加者・参加機関	参加者数
H28年 1月30日	黒埼地区ふれあい協議会情報交換会	自治会役員	70人
1月～3月	民生委員児童委員協議会（各地区ごとに5回開催）	民生委員、児童委員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、地区担当保健師	10-20人程度

調査結果の地域への報告④

・区民、地域包括支援センター、区役所等、新潟大学研究チームとの話し合いの実施（グループ・インタビュー）

1.目的

これまでの調査結果を踏まえ、一人暮らし高齢者が別居家族や近隣・友人とのゆるやかなつながりを持ちながら、自分らしく暮らしていけるための、効果的な支援の方法と対策を具体的に検討する。

2.方法

包括支援センター圏域ごとに、1時間半～2時間程度の話し合いを実施する。

3.開催状況

開催地区	開催日	対象者	参加者数
小新・小針	1月29日	自治会役員、民生委員 友愛訪問員、保健師 包括職員、社協職員	46人

「高齢者の孤立を防止し、地域で見守っていくために」
グループインタビューで出されたアイデア

・自治会とは別に福祉会を結成し、会員が隣近所の孤立しがちな方を積極的に行事に誘い出す。
・落語、コーラス、健康教室など多彩な行事を用意する。
・男性の地域への行事参加を促すため、夜の地域の茶の間開催（ワンコインのお酒による交流）
・民生委員の友愛訪問を町内の班長と複数でチームを組み、身近な近隣で支えられるようにしている。
・民生委員の友愛訪問対象者に個別訪問するだけでなく、対象者が交流できるような機会をもつ。
・行政調査などでは、高齢者の「困っていること」を質問項目に入れるだけではなく、「できること（買い物、外出サポート）」も聞き取り、コーディネーターがマッチングする。
・ごみ出しの際にあまり知らない方でも挨拶と一言の声掛けを行う。

高齢者を地域で支えていくために，

「高齢者自身や家族が取り組めること」
「地域の皆さんが取り組めること」
「民間事業者が取り組めること」
「関係機関・専門機関が取り組めること」
「行政が取り組めること」 等
それぞれが主体的に，何ができるか考え，
具体的に検討していきましょう。

ご清聴ありがとうございました。